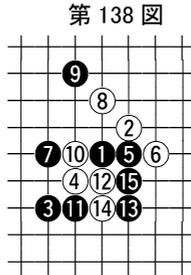


彗星ガイド (15)

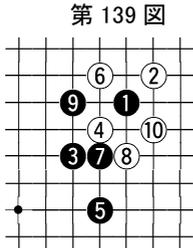
九段 河村典彦

前回の続き、その他の黒5を調べてみよう。

【第138図】黒5は白2の石に近づく(ということは黒3の石から離れる)だけに悪そうだが、雲月の形なので何とかなりそうにも見える。白6は当然だが、黒7が3の石を生かそうという一手。こう打たれると白も困る。白8から10はこんなところだろうか。黒11から13とあくまで外側に打って、黒15となれば黒悪くはなさそう。八番目の着手としては十分候補に入れても良いだろう。



第138図



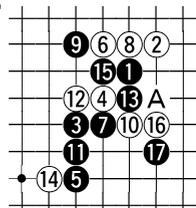
第139図

【第139図】その他の黒5がないかもう少し探ってみよう。黒5は嵐月?とも言うべき形だが、やはり白6で困る。黒7と下から受けるのだが、黒5の石が使えるそうもない。白8から10と打たれると、白のスピードの方が速そう。こうなるともはや黒には防ぐすべがなくなってしまう。やはりさらに遠ざかる黒5はもう無理なのだろうか?

【第140図】と違っていたら、面白い黒5を見つけた。明星の位置に打つのはありそう。やはり白6と打ち、黒も7と受けるのだが、白8、10の時に黒11と引けるのが大きい。長連筋だが構わず引いて

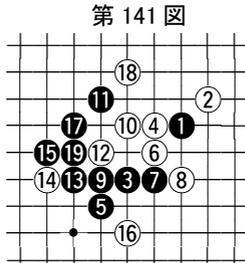
しまおう。結局白は12と止めるのが強く、長連筋が自動的に解消される。黒13に引いた方が絶対と思っていたら、白14と逆止めされる。黒15後四三に見えるが、白にノリ手があり四三にならない。しかし、黒17と叩いておいて白の防ぎも難しい。また、白6をAなら、黒12と打ち、白中止めなら7と打っておく。

第140図



これで黒5の候補は10か所になったので、実戦でどれを選ぶかは相手の顔を見て決めても良いだろう。

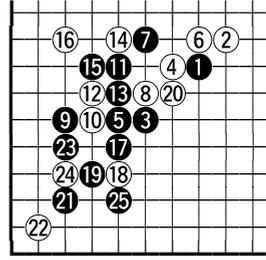
【第141図】いよいよ最後の白4に移ろう。この白4は疎星と共通で、



第141図

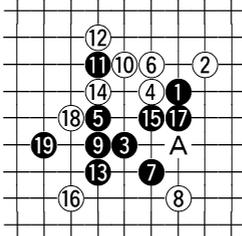
疎星を打たれた時に変化できるから、覚えておいて損はない。まず言いたいのは、6と眠三を作るのが定石の場合、たいてい黒5も成立する。白6以外の防ぎの時は、すかさず黒6と四ノビができるので、白6だけを考えればよくわかりやすい。白6に当然黒7と押さえる。白8はやむを得ないが、ここで10に叩かず黒9と組んでしまうのが良い。これで白の防ぎが難しい。例えば白10、12なら、黒13から引いていける。黒19後簡単な黒勝ちとなる。白10でけん制する手も見当たらないので、この黒5はまず大丈夫だろう。ただし、前回の白4と比較して白2と4が近くにあるため、今回は10か所も打てない。それでも定石を含め七、八題は打てそう。【第142図】黒5の変化。変な所だが、この黒5は有力だ。と言うのも、白6、黒7の時、白8と引かれる手をあらかじめ止めているか

第142図



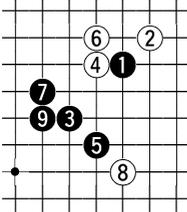
らである。それでも白は8と防ぐが、これは黒9から追い勝ちがありそうだ。黒9から11と飛び、黒13と引けば白14は絶対。黒15にも白16が絶対となるため、黒17から下辺に進出して勝ちが出る。黒25までかなり盤端が近くてきわどそうだが、かろうじてスペースがある。白6で他に牽制する手も見当たらない。

第143図



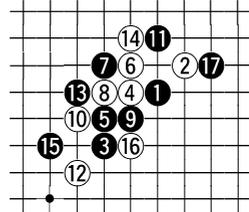
【第143図】黒5と一路上に打つのも当然いい形となる。白6には一本黒7と引けるのが大きい。白8を反対なら黒Aと打つておいて良いだろう。白8の止めなら黒9と組んでおいてけん制しておく。白10には中止めもあるが、黒11とトビ三で先手を取る方がわかりやすいだろう。白12には黒13、15と引いてしまうのが簡明で、白18に黒19と打つて白は防ぐ術がない。

第144図



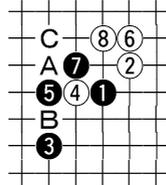
【第144図】黒5とこちら側にコスムのも同じようになりそうだ。白6なら黒7と引いて黒9で、前図に戻っている。これは黒勝ちなので、白6は他に求めなければならぬが、一路上に打つのも黒が勝てそうだ。白6はたいいここか一路右もしくは左がけん制手として考えられるので、ここに注意していけばよい。

第145図



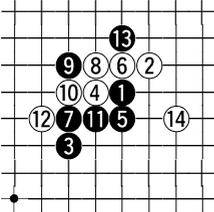
【第145図】次の黒5を探そう。譜の黒5はさらにいいように見えるが、白6と打たれると黒7を9に打てない（三々禁がある）ので、先に黒7と打つておかなければならないのが辛い。そのため白10と引く余裕を与えてしまい、混戦となる。黒17までを示したが、いかにも混戦の図である。ただ、この展開も元が彗星と思えば望外の展開で、この五珠を外す理由にはならないだろう。

第146図



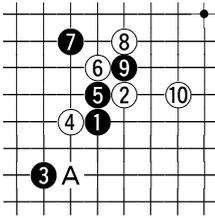
【第146図】もう一路上の黒5・疎星に似た形となるので黒戦えるように見えるが、白6と欲張る手があり黒は困ってしまう。黒7には白8とさらに欲張られてしまう。黒5をさらに一路上に打つAには、（峡月に戻りそうだが）同様に白6と打たれて黒Bのトビ三に白Cと欲張られてこれも黒困る。

第147図



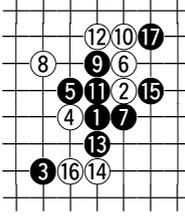
【第147図】黒5は見ようによつては雲月なので、悪くないように見える。いずれにしろ、白は6と打つ一手だろう。ここで黒7は打つてみたい場所だが、平凡に白8から10と止められて、あまりよくないことに気づくだろう。黒11と引くぐらいだろうが、白12と先手で止められて白14に打たれると黒の方が窮屈そう。ただし、形勢はまだまだこれからで、中盤以降の力が試されることになる。

第150図



【第150図】いよいよ最後の図となった。150図も並べれば、少しは彗星が好きになっていただけだろうか？黒5と乗り込んでいくのもあるが、苦戦を覚悟しなければならぬ。白6、8が白の常套手段で、対して黒9なら白10で白の有利な呼手合戦となる。この5を入れると八題は可能だが、山月斬月共通のAを含め七題あたりが無難だろう。

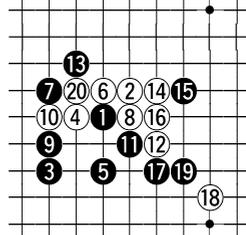
第149図



えなくはないだろう。

【第149図】黒5はここだけで言えば花月なのだが、次が白番なので風景が180度違ってくる。白6がやはり強烈で、黒は防戦一方になってしまふ。黒7、9はやむを得ないだろうか。なかなか黒3の石を使う展開になつてこない。ただ、黒13から15と乗り込んだ時、黒3の石が下辺の防ぎに役立つ。黒17まで何とか戦

第148図



【第148図】次の黒5は前図より一路下だが、同じように白6が強い。黒7はやはりここだろうが、白8と固まつて黒は困る。黒9から11は必死の抵抗なのだが、白12から攻められてしまふ。黒17でノリ手が利きそうに見えるが、白18の四ノビ一本で腐らされてしまふ。白20と止めた手が上辺での四追い含みになつているので、これで黒はお手上げである。